



73  
6021





去乃字人

所法弘法流書

7條8  
6021

學大田稻早  
館書圖  
庫文田內者托寄  
號三一第書托寄  
號 25 第  
冊 第



門 7 係 3  
號 6021  
卷



中流

大正七年九月廿日寄  
內田親子氏贈

想所

名之先

物 一 九

家 書 花

田 地 代 店 貸 想 之 子 所 入 用



懸掛り言に調は如町入用をりる  
多ふうの相見は一社町入用をりる  
かゝ威方毎々分公は  
沢急公の筋目方と後公系て  
右の外は如何なるに計し  
とて候はれども是れは

いへば重なるは如歸早  
多ふうの相見は一社町入用をりる  
かゝ威方毎々分公は  
一町い候はれども是れは  
多ふうの相見は一社町入用をりる  
かゝ威方毎々分公は  
一町い候はれども是れは







浦の坊主もたらのある町役人を  
結して一人役人並に毎々日記載  
し一紙て致し万一等閑に筆を  
町役人とて一紙致し万一等閑に筆を

一町火の見度字を女を  
省略して一用を致し致し

一自方巻尾追々廣く  
想ふに重なる字を速廣く  
復るあり一紙致し万一等閑に筆を  
一紙致し万一等閑に筆を  
一紙致し万一等閑に筆を  
一紙致し万一等閑に筆を  
一紙致し万一等閑に筆を



忽揚末をむりして二三之町抱合小  
字一歳ハ勝子治事ハ事ハ  
一又番尾上法流

所成をそ、公ハ風烈く良又折別疾  
らそ、ゆはハ体ハく、海ハ法を余  
多をまとして也法ハ小ハす、法ハ

く外番尾上入、中法、  
持糸酒ハ没て、の纏る中

一町抱く、  
中、  
但品く仕事朱、七月、  
法流の着り



一町抱之介拾遺由來探別増益  
有るゆり減りて致事

一是の町抱之介人足大伸富と括  
其の余少く入用町門と足ゆり  
有るゆり自之有辨成事極致又

但右辨成之町復人不足

かゝる候者ゆりお速に替て

かゝる者ゆり彼是りともゆり

下中お訊なまらぬり有る

一龍吐水と候候

心儀し渡り品在大切探別入用  
掛り候候事不切中渡り



持人は相止階子ぐんを頼る因縁あり未  
人は是れを手にて置揚を亦も暫く用  
るる花の及ませ

一 越後清編書出しの字にあり最書の  
連印帳一町限書後くこの徳右様書  
として町中連判店連判にせり

町年寄の左方にお記は右印形に揃  
ぬこの度清編書あり候... 福徳のハ  
定例くはらよおはるに類言は  
お毎中ても平敷書にせしめは交謝候  
心はゆきのものも... 遠方候有る  
町年寄事... 此らに連判に候



一町限の帳面は三町年寄のとも  
納付金と相止書に引付物書と  
店主とくまのたを能きおき  
町役人た入とて中教の若等閑  
くし方おひんおいてハ礼  
況度とておる

一町を以て所腰掛着縁毎湯茶小  
ゆくと所役人より二錢も若くは  
自今迄存後所金と取贈る  
をさるる

一捨子貴法被書月山者木小児十歳  
ゆくの月病死と元町町役人



子哉松子見届子細事と云ふ一途  
届て病相あらふたひて八檢使を  
写受りて之を名入念す事

一檢物ありて書ゆり町役人とも書  
相改を違なくハ書書自りて之を  
渡せし檢物ら町にらげり

之候て届て事

附於之と云ふ事一 並に日限

の月と書ゆらも本文同様て紙

一紙舟車候届切る海ゆり別紙  
く藤く海と度候有ゆり人  
ち町役人ト申書書自り



家書印形に一商人番頭  
持系と号をす

個に書法を以て印と届候も  
本文と趣の致し之殿に達置  
む所も度々有る者なる所  
彼は印の形は極小なる所

の致し

一自今以後に水書法及送り印  
町奉行掛り小ならしむるを  
是を印書法を以て印と届候  
相違高貴物に還上り候  
是等の致し印も以て未だ



てやうな事

組右廉くやうな事な別紙

かへ渡り事

一とあやゆらげ出火を後十間余を  
うお属小火のちかぬ及属股事保  
年中相福の趣は中絶てやうな

一水浪細と形ある苗所を介法向は

あまのし書有れは材紙用ひは

西の月紙ふりし西の月用ひは

英法紙も紙ふにもと

一切支丹宗門共皆英法藩員隠憂女  
ふ成りし流文毎年三月一



番頭より下りて各々を事

一いつくしの世々名の連判帳  
是を毎年町年寄より申渡す  
是を来りし世々名及世々に  
之を相公の札又入と云若右所者  
有るはく之を世々名に申す

一曰雇人別帳前條同部申渡す  
来りし世々名毎年二月度迄申す

一人別帳世々名毎年三月一度迄申す  
然らば世々名は紙に申すに申す

但只今を九月迄申す相止し申す  
四月迄申すは帳に入らばは申す



のいふことと終つて一重に重なる事  
一 惣所家書に於て是の公田法  
淨域をいふは此の公田法  
代神地と云ふは此の公田法  
以来右所成法にて終つて  
打書の中は法は筋有るは此の公田法

宅の公田法  
一家書に於て是の公田法  
惣所家書に於て是の公田法  
人数は此の公田法  
公田法  
公田法



但家も門替は是町礼を通用し後  
前々相福は後世先夫は亦おるに  
中編より一ころた入用をせしむる  
後

一山王神田其外大系礼は是を  
番組の外神りもの万度一切令  
止  
階系は也系町も大津樂一組外二組

但公教之と定ふるを名おるは  
其のたもの美災の夜は是も  
家も大夜類もこころん中ても  
階系は也系町も大津樂一組外二組  
のたもの美災の夜は是も  
家も大夜類もこころん中ても  
階系は也系町も大津樂一組外二組  
のたもの美災の夜は是も  
家も大夜類もこころん中ても  
階系は也系町も大津樂一組外二組

但階系は也系町も大津樂一組外二組



小ゆるくは所くの間延長ありて  
何事一十の間ありと別有るに  
差をいし世法者おと所く順くに  
のとお勤の且神連、旅所、并地を  
伏所、亦別所、入用、おのり、ゆる、者  
階系、り、入用、相除、ひ、た、又、ハ、右、新、く、入、用、を

おとら、所、系、町、懸、別、小、い、あ、り、た  
ま、所、く、中、法、く、と、名、は、先、世、法、者  
勝、目、宜、方、は、相、施、の、間、を、く、別、合  
の、り、の、神、由、系、に、其、外、も、右、准  
て、れ、斗、事、

一、想、白、系、禮、休、年、臨、系、く、唱、ひ、ん、ん、地



いふ一入園地町にも存く也貴  
以存右能成一切改ら發事

但福らそのふら若五年に象乳  
瓶しこく世所いふの字果かさら  
身のふら若らち想て相入はし  
母くねつぬる

一象漢らら有取集溜後いし一葉  
町くも有く也貴いふ改ら發事  
一知る清用物新調在他後とも其筋く  
以周達たに下りい角ち火くも右用物  
持邊強有人は字果か若ら發らるる  
のほる



一 涉鷹岳並大宮より一町へ入用  
かしらひ遠く山背山入用は松林  
のをまき

一 此山見寄の念い申しは長宮町へ  
足らひ山背山背山入用は松林  
のをまき

一 町屋敷賣買の良法を其外町入  
世々松の政令先年より度々申渡  
まに商年にもお福の徳を今より多分  
入用せし断りも有る観お申す松林  
海に定る海下にお申す東方に道  
一歩一歩百歩申す松林







一 地之代替以今之代是又元年  
度之相續也其當實之良者也  
之公一之山名法之台と存た外  
入用也海一其度世一極た  
但之と一より内其一東公之  
仕果之海下收事

一 道造り其本戸普法中後大破又ハ  
其愛ホハ格別年た普法と中極後  
世々極自入の收事  
一 其百間入用其集方と後只今とハ  
小間割面割と外何割と唱取集  
多少甚う同と其相取集







行来ふらふら小間割何れ何れと  
別合也町年考毎名も夫取持地面  
母く是の町入用割合の掛らるも  
小間割といふ町母も別割自今年分  
積り立右町入用考何れ日定式分  
何れ日決は何れ縁附分なる行流

小間割掛り何れ宛り南町入用是と  
のりり高に何割減り女取合行流  
増しと中後一町限り一人別明白書有  
りあり支配限り取集来り六月晦日と  
名にたたり家考の番所とりのり合は  
右定法と持用り由て格計の合を



積り立山町くも首くもあつてはらふま  
彼後北放く地まの家を及取らぬま  
下處巖科の心得遠まくたぬま  
此版中へ版の

附家もたぬ心掛直まの存け夜  
中版の減方源切世活くくまの

くまの山りく苗訓上へくまの及換の  
く沙法系まをゆりぬ

一俗か着ひまのく習むつくまのた  
町くも存く系れま其外まのま  
地まの祀り或七月焼籠ま又ハ  
神佛用帳くま紙物具秋まをま



糸詰り入用と糸糸首とち念は家  
社人のち加帳ふはゆゆはと地と毎  
地信り信信りとのたことと無理ふ勤り  
ふ得んよて断りゆゆの意教と念仇と  
かきし事かたかき自然と渡世の  
妨りよちりゆゆの母は是那と意ふ満をゆ

類もららるる他相國の物と事と近來  
右所りの町と有るはあてふと決  
書付中封ふいあゝ商人一人持来  
番所よりの名をいふ子陳と味とと其品  
母意し更く沙は是なりけり  
あさくら信取斗と事と事



右町くみ水久般繁榮之基なり  
重き

沖般意之清正を以て易く定法  
より第一統序を相公増大切と改定書  
多うした家もたは是を種く定法  
いふ地もたは多分く費用掛り

町くも水久般の増大は多分く定法  
より第一統序を相公増大切と改定書

向後ハ右定法ハ少くありたは定法  
於てハ重き法然とありて定法  
下は



右之通想所一統之廣極中極也  
但如南洋領地及安南武家抱危補亦  
有之所以共而所設令人有存續  
之氣地宜其小不戶達事

日月



